

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大牧小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語や算数などを中心に読解力が不十分であることから教材や問題の読み取りへの苦手意識がある。 <指導上の課題> 探究的に学習を進めていくサイクルづくりが不十分である。授業の課題に上限があり、児童がさらによくしよう、高めようとする環境が整っていない。	⇒ 学校課題研修で推進している「学びのシンキング・サイクル」による授業づくりを年間を通して行う。「情報の収集」場面を重視し、目的意識をもった教材や資料等の読み取りを行い、読解力を養う。「ふりかえり」の充実によってメタ認知を高め、次の課題につなげることで探究のサイクルを構築する。単元全体を見越した教材準備を行うために学校課題研修で作成した「単元構想シート」を活用した単元づくり、授業公開をする。 【学びのシンキング・サイクルによる授業づくり及び単元構想シートを活用した単元づくりの授業公開:全教員が2・3学期に2回以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 授業への参加意欲はあるが、自分の考えを広げたり深めたりしようとする探究心は不十分である。 <指導上の課題> 自己調整学習と併せて、各教科の見方・考え方を押さえた授業づくりが十分にできていない。	⇒ 年間を通して学習のふりかえりを充実させ、自分の学びを振り返ったり、さらに調べようとする気持ちを高めさせ、探究心を養っていく。「整理・分析」「まとめ・表現」の際には、教科の見方・考え方が働くような発問や支援を行い、教科の特性に合わせ思考し、表現ができるようにする。デジタル学習基盤を活用するとともに教科の見方・考え方が働く授業づくりを行う。 【デジタル学習基盤を活用し教科の見方・考え方が働く授業づくり:大単元ごと】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語科の「情報の扱いに関する事項」については、県平均を上回る結果を得た。「学びのシンキング・サイクル」における「情報の収集」の時間に文章や資料から適切な情報を見つける力がついてきた成果と考える。一方で、読解力については依然課題が見られる。文章や資料の単純な読み取りは概ねできているが、複数の資料を関連付けて読み取ったりまとめたりする学習に対する苦手感をもっているようである。また、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」にもやや課題が見られる。デジタル学習基盤を活用した授業を推し進めた結果、従前漢字の練習等に充てていた時間が情報活用能力を伸ばす時間に充てられ、相対的に漢字を書くことへの苦手感が増したように考える。	
思考・判断・表現	算数科の「数と計算」においては、式に表したり計算したりする基本的な学習で県平均を上回る結果を得た。図と式、言葉に関連付けて説明する授業づくりが各クラスで意識されている結果と考える。一方で、「データの活用」については課題が見られた。特に、理由の説明を記述する問題については無回答率が県平均を上回り、苦手感が見て取れる。これは、学習の「自走」化が大きく進み主体的に学習を先に進めようとする児童が増えたことで、考えを深めたり広げたりする時間が相対的に減り、理由や説明をノートに逐一書く学習活動も減少したためだと考える。教師の適切な介入によって、教科の見方・考え方が働き、深まるような発問や支援を一層行っていきたい。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③		中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・学校課題研修で共有している「単元構想シート」を活用し、ゴールを明確にした単元・授業づくりを行っている。 ・確実に押さえるべき基礎的・基本的事項については、ルーブリックの振り返りに言語化したもので把握し、必要に応じて個別対応して定着の徹底を図っている。 ・Formsを活用した小テストを適宜行い、学習の振り返りをしながら、児童が探究的に学習を進めるために必要な知識を確実に定着できるようにしている。	変更なし
思考・判断・表現	B	・教科の見方・考え方が働く指示や発問、声かけなど教師の適切な指導・支援のもと児童の学習が深まるようにしている。 ・児童が「自ら学習の目標を設定する」「見通しをもって自分に適した方法で学び方を選んで進める」「自らの学びを振り返る」という、自ら学習を調整しながら学力をつける授業を展開している。 ・学びのシンキング・サイクルを学校全体で継続的に活用し、形態の選択や資料や動画等の活用の方法についても児童が自ら考えて「学び方をデザイン」できるとともに、今後も教員全員の授業公開を通じ授業改善を進める。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)